

「地震避難体験訓練の 開催経緯と結果」について

『防災シリーズ No. 4』

平岡地区町内会連合会

中川 昇

例年にはない大雪に閉口した平成24年度でしたが、4月の声を真近に控え、ようやく春らしい暖かい時節がやってまいりました。

平岡地区の各町内会の皆様には、平岡町連の各種行事に絶大なるご理解とご協力を賜わり、心から感謝申しあげます。

東日本大震災から早くも2年が経過しました。遅々として進まない復興対策や除染作業。被災地や被災者の皆様の心情に思いを馳せます。

大震災を教訓に、各町内で緊急時に備えた防災訓練も少しずつではありますが取り組みが開始されつつあります。

平成22年12月2日早朝の清田区真栄付近の直下型地震、これは月寒断層でした。北大の西村助教授は500年周期で既に400年程経過しておりますが、今や大地震が起きても不思議ではないと発表されています。

《冬期に月寒断層異変

が起きたら?!

月寒断層直下型の場合、湊
田地区の被害が甚大になり新

- 5、建物、火災、崩壊が起り全てが対応できない。
- 6、道路が壊れる、倒れた建物放置車両等で消防車、救急車等交通困難
- 7、連絡網が取れない
- 8、ライフルラインが絶たれ、特に水、電気、ガスが使用出来ない
- 月寒断層直下型の場合、遭

発生を想定)
1、発生時死者が1500人から2000人
2、重症者30,000人
3、救護者6,000人
(凍死)

平岡地区町内会連合会
清田区平岡7条3丁目9-25
平岡地区会館内
☎ 883-7100
発行責任者 松尾 隆
編集責任者 妹尾 裕司
渡辺綱太郎

たな防災対策に着手すべきと
判断しました。(地域住民の活
動が減災になる)

- ・ 夕食準備 福祉のまち推進センターや10人による100人分の食事作り
- ・ 18時夕食 19時就寝環境作り 慰安の訪問、ビンゴゲーム、子供遊び

進 分 作

- ・救助搬出避難所に行けば命が助かる
- ・安否確認、被害者通報
- ・骨折者、高齢者、担架、搬出
- ・難場所へ雪道のソリ搬出
- ・親子消火活動、消火訓練
- ・応急手当、搬送法訓練、ED、心肺蘇生訓練
- ・救助の手分け(効率、迅速)
- ・安全)火災防止講座

(2) (1) 9名宿泊43名 訓練内容

3、第2回冬の地震避難宿泊
体験：平成24年2月11日
12日、平岡小学校体育館
参加者108名、一般子供
我が家の耐震診断
成23年10月誰でも出来ます
していきます

体験後 3月11日14時
分東日本大震災が発生しました。死者1万5889人。不明者2698人。避難32万6352人。また、津波の恐怖は頭から離れないことは無いと思います。又、それ以降日本のどこかで地震が毎日発生しておりますので、改めて訓練の重要さを認識せねばなりません。

4、平成24年秋の防災訓練：
 平岡中央中学校合同訓練
 参加者210名(生徒106名)

体験：平成25年3月9日
10日
場所、平岡まちづくりセンター
避難場所へ現場から
雪道のソリ搬出(他は秋訓
練と同様)

(結果)

生徒との交流、顔見知りの人も多く何時も見守つてもらっている安心感、訓練内容も興味深く真剣に取り組み訓練技術マスターが早く且つ行動も迅速でした。

この訓練を体験した中学生は、災害時ののみならず万が一の場合大きな力を發揮してくれます。

(2) 札幌は寒さ対策。やはり寝袋は1人1個必要ですが冬場の課題が多くあります。

(3) 家庭での非常用品準備(水、食料、薬等)

(4) 避難場所、集合場所を決めておく
(5) 災害に備える『地震防災マップ』豊平区清田区保存版

はじめに
平成23年3月11日
東日本大震

大震災が発生し、地震、津波、放射能の三重苦に悩まされました。当地区についてても平成22年12月2日石狩

『わが町内会の自主防災訓練』

「防災・減災のための と「組織づくり」

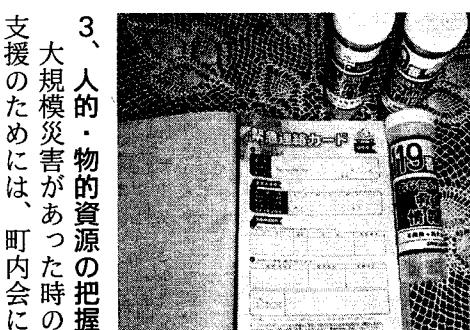
平岡梅ヶ岡町内会 会長 山田 善真

今後も最悪条件を想定して、開催場所、時期を考慮しながら様々な工夫を加え、より現実的な内容を取り入れた夏と冬の訓練を実施して防災力を高めていく必要性を感じています。

いざという時、普段やつている事しか出来ないとわれます。ご自身、ご家族を守り、近隣の方々と助け合って苦難を乗り越えていく行動で思いやりのある平岡地区で在りたいと願っています。

過去の大規模地震の事例によると、発生から3日程度は公的支援が期待できません。本格的な救援が来るまでは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という気概でわれわれ住民が団結し、組織的に活動することが求められています。

町内会としても、会員にそのことを納得して取り組んでいただきことを第一義としています。つまり、町内会から自動的に、強制的に支援するのではなく、各会員の自主性を重んじた自己申告の登録制度として取り組んでおります。減災の最終目標は、会員の3日程度の食糧、水まで町内会で用意ができるようになることを願っております。



体育館での宿泊 暖房なし
ダンボール、毛布、寝袋にて就寝
午後9時=5°Cから徐々に下がり
翌日午前6時=△1°C(外気温△14°C)

地方中部地震(清田区直下型地震)が発生しており、津波、放射能の問題は心配する事はありませんが、地震についての対策が必要であります。とりわけ自然災害は人間の力では防止することはできませんが、被害を少なくすることは出来ます(このことを減災といいます)。

大規模災害時の減災の取り組みは各企業でも始めておりますが、町内会としても始めました。

過去の大規模地震の事例によると、発生から3日程度は公的支援が期待できません。本格的な救援が来るまでは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という気概でわれわれ住民が団結し、組織的に活動することが求められています。

町内会としても、会員にそのことを納得して取り組んでいただきことを第一義としています。つまり、町内会から自動的に、強制的に支援するのではなく、各会員の自主性を重んじた自己申告の登録制度として取り組んでおります。減災の

1. 規約の制定
日常の町内会活動とは別に独立した組織とし、「岡梅ヶ岡町内会災害活動委員会」を立ち上げ、規約と会計組織をつくり取り組んでいます。

2. ファイルの備え付け

「災害は忘れた頃にやつてくる」といいます。東日本大震災も記憶から薄れてきている人もいるのではないかでしょうか。当組織の取り組み目的・内容・規約、自分が役割分担等がいつでも確認できるように各戸に「災害活動委員会ファイル」を備え付けていただいていることがあります。そのことによつて、取り組みの必要性、運用方法の統一化をはかり、会員の拡大解説による一人歩きを防ぎます。

4. 個人情報の厳格な運用

漏えい防止
今かかっている病気、服用している薬、アレルギーの有無、健康保険証番号、緊急連絡先、かかりつけ病院等の情報を「医療情報リスト」に入れ、各戸に備え付けるようにお願いしております。これらは個人情報であり、各戸が責任を持つて管理していくことを原則としています。災害あるいは事故等で緊急で一刻を争う病気や怪我が発生することがあります。事故者を供しかいなく情報が得られない場合、事故者が、口がきけない場合、供しかいなく情報が得られない場合等に役立たせるも

支援のためには、町内会に

3. 人的・物的資源の把握

大規模災害があった時の支援のためには、町内会に

のです。また、大規模災害時
の家族の安否確認にも役立
てば良いかと思っておりま
す。要支援者がいるか否か
の「連絡票」、要支援者の「防
災カード」、支援者の「地域
資源・人材カード」等の配
布・回収は町内会の班長さ
んの力を借りて取り組んで
おります。資料の中には、
個人情報に関するものもあ
り、規約をつくり、厳格な運
用をし、情報は拡散しない
よう必要最低限の人と共に
有するようにしています。

5、避難場所・避難所

町内会として一時避難場所、避難所をどこにするかを決めしております。大規模災害が勤務時間中に起きた場合、家族が避難していく場所が特定されていれば、その場所に探しに行くことができます。また、避難者は一時避難場所で災害情報の確認、安否確認、地域の安全確認、災害支援の役割分担、避難所の安全確認をし、その後、災害対策本部の指示に従い、町内会全員の統一行動によって避難所に行くことにしております。

おわりに
現在、元気な人が病気になることがあります。病気であつた人が治ることもあります。支援者として、登録した人が体調を崩して支援できなくなるかもしれません。人間である以上、状況、状態が常に変化していくもので、一時として、じつとしている状態はあります。それらを完全に網羅して活動することは大変難しいことですが、最低でも1年に1回程度は見直していきたいとthoughtります。

災害は、いつ、どこで、どんな状況で起きるかわかりません。普段から油断なく取り組んでおくことが必要なことがあります。

災グッズの準備・勤務時間中に大規模地震が起きた場合の対処の仕方・屋内で地震に遭った場合・屋外で地震にあつた場合・発生直後・ゆれがおさまってから3秒後・1分ないし2分後・3分後等時間経過ごとの行動指針が判るものを作成する。人的災害については、遭わないよう気に付けるようにしていただくことが大切ですが、自然災害については、減災につとめることを基本に啓蒙活動に取り組んでおります。

「防災について一緒に」

《わが町内会の 自主防災訓練》

平岡シニアピーリングの番館町内会

鎌倉修

ほど用意すべきか」「避難

A black and white portrait photograph of a middle-aged man with dark hair, wearing a dark suit jacket, a white shirt, and a dark tie. He is looking slightly to his left with a neutral expression.

《はじめに》

ほど用意すべきか」「避難場所がわからない」など、初步的なことを理解していない方が沢山いることに気がついたからです。また、当マンションの設計管理をした会社から「震度6強の地震では倒壊・崩壊しない」と入居者に周知されたことから、「それなら防災について考えなくてよいのではないか」と誤った認識を持つ人が出てきたからです。

二 開催に向けた準備

平成24年2月26日、集会室で開催することとし、町内会ニユースで呼びかけたところ、29世帯30名の方から申し込みがありました。防災用品を展示するため役員が持ち寄り、足りない分は購入し、家具転倒防止器具・非常持出袋・簡易トイレ・ランタン・缶詰ろうそく・防災用手巾等、なんとか恥ずかしくない程度の物を用意しました。



《防災セミナーの開催》

初步的なことを知つても
らうのであれば、役員で出
来るのではないかとの結論
に達し、部外講師は頼みま
せんでした。

一
内容と講義



防災セミナーの講義状況

- 断層といふ活断層のほぼ直下にあり、倒壊しなくとも他の地域の被害によつてはライフラインが断たれると話したところ驚きの声が上りました。
 - 家具の配置と固定器具を手にとつて使用方法を学びました。
 - アルファ米と缶詰パン

「どこへ避難すればいいのか」「すぐ横を高圧線が通つて
いるが、鉄塔の強度は大丈夫か」との質問や、終了後
は展示している防災用品を手にとつて使い方を質問す
るなど、関心の高さがうかがわれました。

「主人が単身赴任中の
で、私がしつかりしなけれ
ば」と言つて参加されたご
婦人、「敷地いつぱいに建
物が建つてゐるが一時的に

□ た物を捨てずに、洗濯して保管しよう。

□ 車の燃料はタンクの半分以下にしない。親戚等へ避難するにも、通院や買い物に行くにしても車は必需品です。

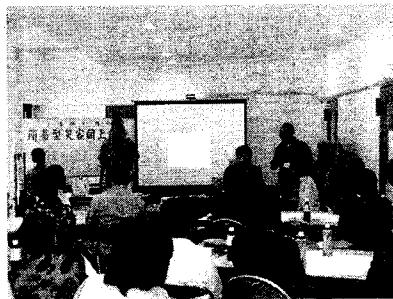
□ 避難所生活の悲惨さを

□ 「結構おいしいね」とか「非常食は高いけど一般的なインスタント食品なら安いよ」と主婦ならではの声。

受水槽に飲料水が備蓄されていて、エレベーターが止まると部屋へ運べない。

陣を切つて「簡易型図上訓練（D.I.G.）」を開催、36人が参加してくれました。有資格者の講師のほか区役所の担当者もおいでいただきました。講師の質問に自信を持つて答えることが出来たのは、セミナーの成果だと思います。

平岡第一幼稚園町内会の活動



簡易型災害図上訓練の状況

消防訓練を含めた三行事の参加者は、実世帯では40%程度にとどまっていることから、今後、参加者を増やす工夫をし関心を持つていただくことによつて、有事の際には少しでも被害を少なくしたいと思っており

9月30日には、恒例の消防訓練を清田消防署の指導の下、管理組合と合同で実施し、67名の方が参加、当町内会として初めての煙道通過訓練、訓練用消火器による消火訓練・AED取り扱い訓練などを行いました。いずれのときも終了後には防災用品を記念品として配布し啓発に努めております。

平成24年度の町内会総会に於いて、新事業として(1)高齢者対策事業、(2)ごみステーション管理委員会を立ち上げる事が採択され、現在活動段階ですが、その内容を紹介します。

高齢者対策事業は、日常生活に支障のある町内会員

平岡コーポタウン町内会
広報部長 佐藤 博之

が、安全で安心な環境の中で生活を営めるよう、町内会で支援体制を取つていくことを目的に「ふれあいサポートタウン」との名称で発足しました。①75歳以上の独居人、並びに夫婦②人世帯③病的障害があり、家族等が遠距離のため支援

ではイカソムという町内会長の発案で、今年度からごみステーション問題を取り組んでいます。まず初めに、当番制にして町内全世帯にやつていただきことを前提に話し合いが始まりました。保健衛生部長を中心として会長他関係役員が会議を重

ごみステーションは、現在町内に10箇所設置していくが、この大雪のなかで除雪、集配後の掃除等は近傍の住人に行つてもらっているのが現状です。これではイカんという町内会長の発案で、今年度からごみを実施する予定です。

が必要な人達を対象に取組
もうとしています。

内会員でない世帯・ごみステーションを所持していな
いアパート世帯・老人世帯等を当番制にどのようにシ
フトしていくか、諸問題を抱える中アンケートを実施し、会員の動向を調査しました。設置した。その結果、ごみステーションをあと5箇所程度増やすことにしました。設置場所付近住人の許可はすでに確認していますが、班長会での事前説明等、まだまだクリアしなければならない問題もあります。今後、平岡コーポタウン住民のご支援、ご協力を得ながら、平成25年度から増設していくといふべきだと思つております。

我がコーポタウン町内会役員は、残念ながら殆どの人が1年で役員を辞める傾向にあります。そんな中で良くここまでやれると、参画している一人として敬意を表します。また役員を連続して行う町内会になるよう、今後微力ではあります
が、お手伝いしていきたい
と思つています。

のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。



平岡小学校児童によるオープニング

ました。改めて平岡小・平岡中央中の児童生徒の皆さんにお礼を申し上げます。さらに、30年の足跡を示す風景や行事が写し出されたスライドでは、誰もが懐かしく見入つたりして、写真のパネル展示とともによい催しの日となりました。今後とも、地域住民の信頼と協力の下、緑豊かで住みよい安心と安全の町づくりを進めてまいります。

高齢化が進む中、災害時のいざという時のために、近隣の助け合いに取り組んでは、という会員の声をもとに「助け合い・見守り活動」を推進していくこととしました。その最初の取り組みとして、12月8日に全戸に「助け合い・見守り活動」のアンケートを実施しました。その結果、全470戸中、95.9%の回収のうち、6.0%の方が見守りを希望されておりました。今後、見守り・助け合いの体制等具体的方策（協力員等）について、区の社会福祉協議会とも連

2 安心生活の創造・助け合い・見守り活動をめざ



平岡中央中学校生徒による吹奏楽

・元気なつもりでも年に勝てないことが多いあります。平岡に住んでよかつたと思える地域になればと願っています。役員の方々のご苦労に感謝申し上げます。

・素晴らしい計画なので賛同いたします。日ごろの活動が大事。推進よろしくお願いします。

3 クリーンなまちづくり
環境の整備

平岡北町内会では平成18年度より自主管理されてき

高齢者の世帯が増えてい
る中、近所がお互いに助
け合うというのは、大切
なのでとてもいい活動だ
と思います。思いやりの
ある町内会に所属するこ
とができる安心ですし、嬉
しく思います。

中学生の演奏で「ふるさと」の大合唱

これからも平岡北町内会は、地域の安心・安全とともに環境・福祉を大切にする活動を中心にしてまいりますので、どうぞよろしくご支援の程をお願い申し上げます。

設けられる管理委員会を中心
に会員の協力の下、一体
となつた環境の整備、クリー
ンなまちづくりを一層着
実に進めてまいります。

一致、さらには、町内会役員が各ステーションの管理の役割を担うこと等が出されました。今後は、新たに

たごみステーションの移設を含む諸課題に対し、11月27日から15ヶ所のごみステーション全てで利用者会議を実施しました。その結果、当番の日数と役割及び当番表の書式と内容の明確化と統一、当番と利用者の

39号の編集メンバーは、北地区は平岡北町内会 石井道康さん、平岡公園町内会 仲谷幸子さん（地区に一部変更あり）、南地区は平岡コーポタウン町内会 佐藤博之さん、編集構想・原稿依頼・校正など平岡まちづくりセンターを会場に作業をすすめました。ご苦労さまでした。いつもごとにページめは「みんなの広場」として微笑ましいゴシップ風の編集をしましたが、今回は都合により割愛させていたださました。（編集部）

広報紙39号が出来ましたので
お届けいたします。前年度の部
長交代時より編集スタッフを各
「連町」の広報紙担当者を選出し
て戴き、それを北地区、中地区、
南地区と3地区の担当者をやり
て、編集の仕事に当たる枠組み
をつくりました。

「アラビア語」
「アラビア文」

(編集部)

あとがき